



Japan Environmental Management
Association for Industry

JEMAI環境ラベル現況等

—中期経営計画に基づく進捗状況—

一般社団法人産業環境管理協会

Copyright(C)2014 JEMAI All Rights Reserved

1-1.概況、全体動向等



エコリーフ登録公開状況

2014年10月16日現在

◇PCR制定公開数

82件(現在公開数78件)

◇ラベル公開累計数

1,384件

(内海外輸出製品147件, 現在公開数 581件)

◇公開企業累計数

75社

＜主な参加企業＞

■印刷複合機関係

(株)リコー/(株)PFU/富士ゼロックス(株)
京セラドキュメントソリューションズ(株)
キヤノン(株)コニカミノルタ(株)セイコーエプソン(株)
ブラザー工業(株)

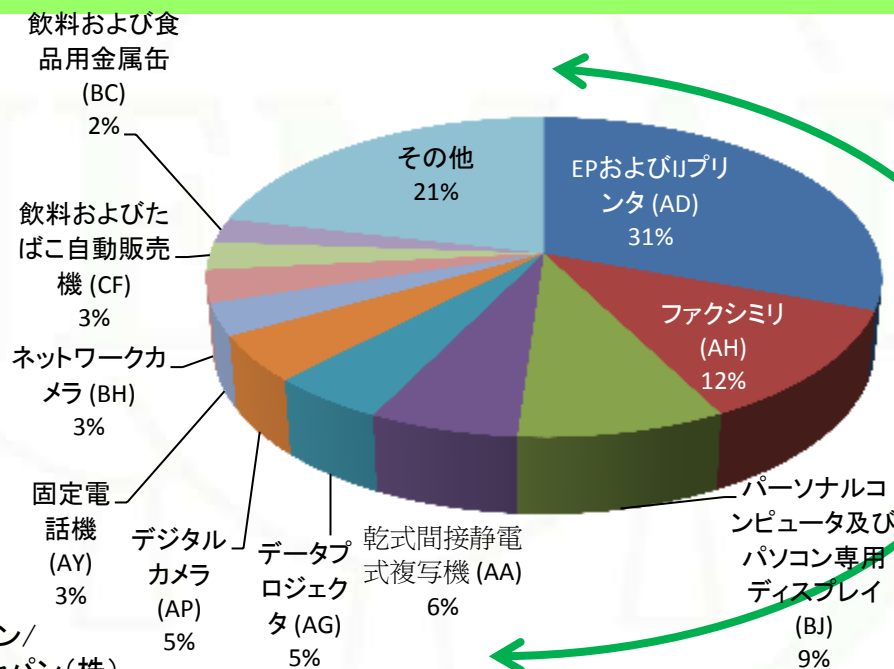
■電機・電子分野

(株)東芝/ ビッグロブ(株)/富士電機(株)
パナソニック システムネットワークス(株)/
パナソニック(株) エコソリューションズ社
愛知時計電機(株)/三菱電機(株) /矢崎エナジーシステム(株) /
(株)キトー/サンデン(株)/(株)ダンレイ/ユニバーサル製缶(株)/
東洋計器(株)/レシップ(株)/レシップエスエルピー(株)

■食品分野 日本ハム(株)

■衣料品分野 (株)チクマ

■その他 (株)モスフードサービス /(株)JSP /(株)エアシーワ/
(株)ファインテック/(株)甲商/(株)川島織物セルコン/(株)平和マネキン/
インターテック(株)/クラレファスニング(株)/タカシマパッケージングジャパン(株)
パナソニック システムネットワークス(株)/ミクニプラスチックス(株)
関東共栄(株)/積水化成成品工業(株)/東洋製罐(株)/日本テトラパック(株)
富士フイルム(株)/富士特殊紙業(株)



印刷複合機等52%



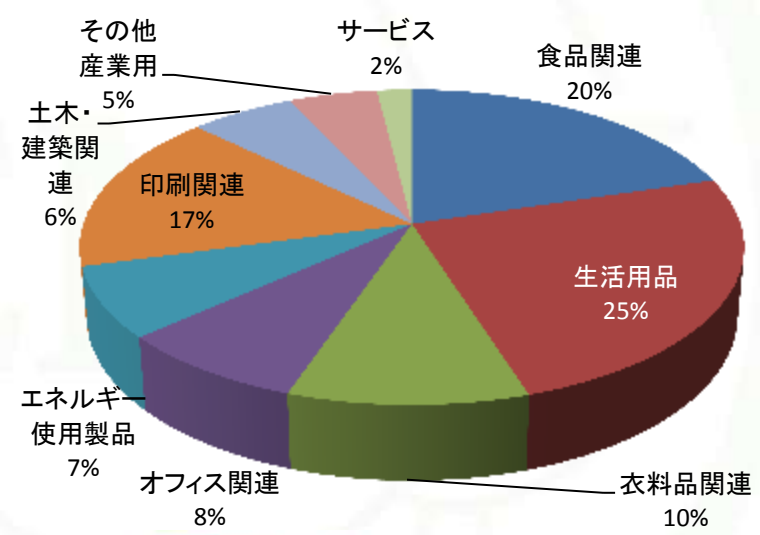
CFPプログラムの登録公開状況

2014年10月16日現在

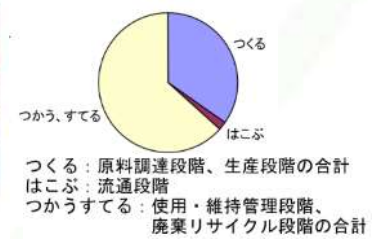
◇CFP-PCR認定数 **101件** (現在使用可能件数62件)
 ◇CFP宣言認定製品累計数 **919件** (現在公開数556件)
 ◇CFP登録公開企業累計数 **166社**

<主な参加企業>

- 食品分野 日本ハム(株)、イオン(株)、(株)でん六等
- 生活用品 日本生活協同組合連合会
- 衣料品分野 (株)チクマ、(株)アシックス
- オフィス関連 コクヨ(株)、イトーキ
- 印刷関係 大日本印刷(株)、凸版印刷(株)
- 電機・電子分野 (株)日立製作所、キヤノン(株)、
- ソニーモバイルコミュニケーションズ(株)
- サービス SGムービング(株)



講師花岡・
ガラスびんのみ
(中核は対象外)
びんが1回使用
で給仕されるの
CO2(44%)に比
べ、リサイクル利
用(84%)する
と、CO2を64%減
できます。



中期行動計画(2013年度～2015年度)

<目的>

- ・ JEMAIの運営するエコリーフ、カーボンフットプリント両プログラムについて、双方のプログラムの整合性確保による参加者の目的に応じた運用と運営面の一体化等によるスマートな運用の実現を軸に、こうした国内外の動向を反映したプログラムのあり方とアクションプランを提示し、今後の適切な運用に反映していくことを目的に策定(2013.8公開)

<目指す方向>

- (1) 国際規格に準拠したプログラム運営を目指す。
- (2) エコリーフ・カーボンフットプリント両プログラムの整合を確保した一体運営を目指す。
- (3) 信頼性・透明性の確保(第三者認証)による製品の環境価値化
- (4) 国内外の諸制度に適合可能な弾力性のあるプログラム構築を目指す。
- (5) 消費者コミュニケーションを重視したプログラム運営を目指す。
- (6) 市場導入の活性化のため、戦略分野、重点分野を適宜設定し、PCRの整備、CFP参入企業の拡大を図る。
- (7) 認知度向上のための多様なプロモーション活動の展開を目指す。
- (8) 関係機関との連携強化を目指す。
- (9) 運営組織の合理化と効率化によるコストダウンの実現



1-2. 料金改定／減額措置、削減マーク



PCR認定及び改訂の料金見直し(案)

見直しの背景

✓ エコリーフとのルール統合

- ・エコリーフはPCR認定料を徴収していない
- ・エコリーフは検証料の中に、認定料が含まれる形になっている。

✓ 現ルールに基づくPCR認定料徴収に対する事業者意見・要望

- ・PCRの著作権は事業者には認めていない。
- ・先行してPCRを作っても、公開すれば誰でも利用できるため、先行メリットは最初の1案件に限定される。
- ・自社の製品のみを対象としたPCRでなくても、申請事業者のみに負担がかかる。
- ・既に作られたPCRの利用については一切利用料がかからない。
- ・改訂にあたっても新規作成同様、手をあげた事業者だけに負担がかかる。
- ・改訂がプログラム運営者側の理由であっても、改訂料は事業者負担。

<上記背景に基づく対応案>

1. 現ルールに基づくPCR認定料の無償化
2. PCR認定料を検証料にPCR利用料という形で上乗せすることで、広く薄く認定料を負担する形への変更

PCR認定及び改訂の料金変更(案)

料金はいずれも税別

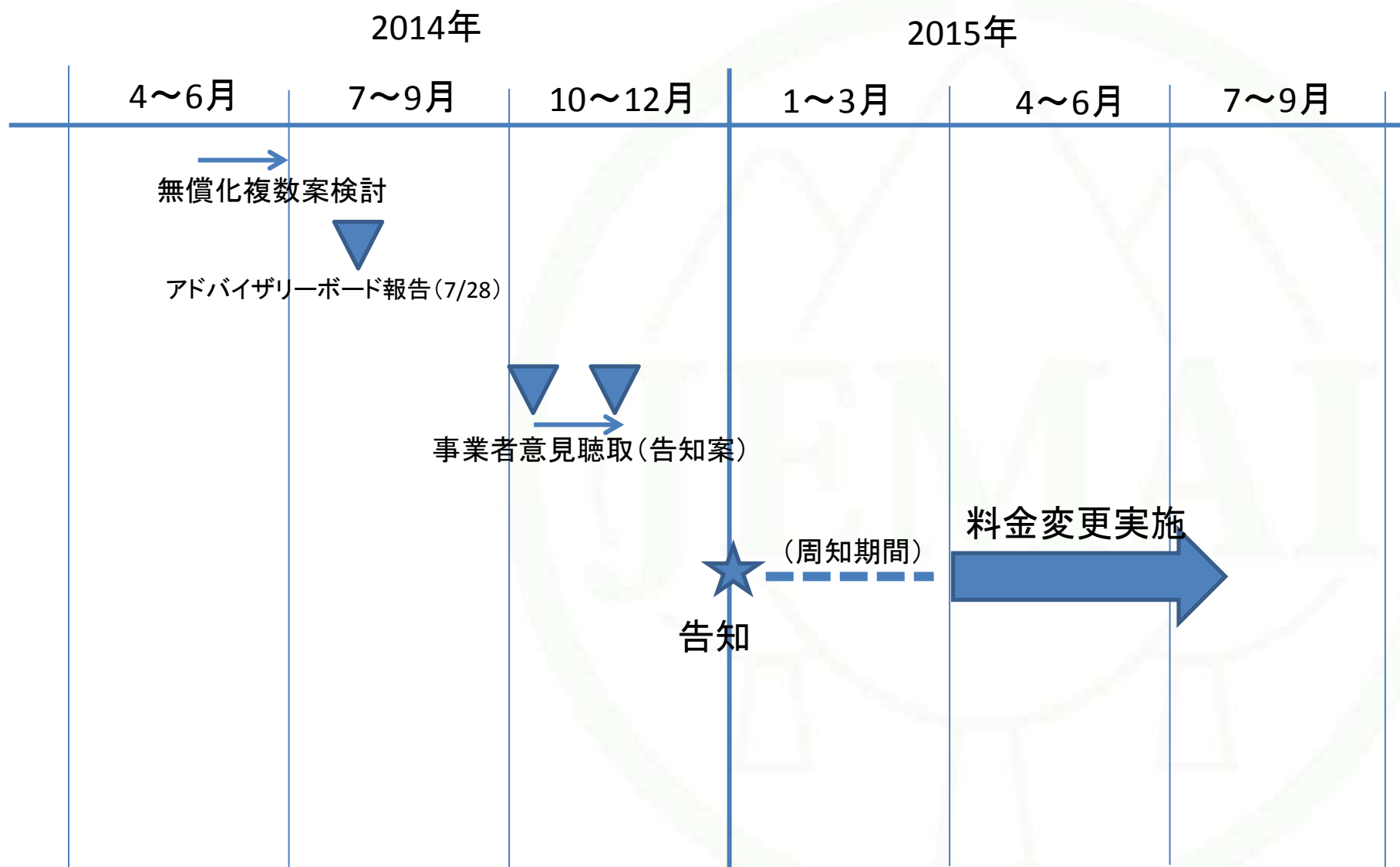
	PCR認定及び改訂料		CFP検証料
個社による PCR申請	認定	11万円	11万円
	改訂	11万円 (3万円／レビュー無し)	11万円
複数社による PCR申請	認定	0円	11万円
	改訂	0円	11万円

但し、個社のPCR申請であっても、CFP検証を同時申請した場合は、同時申請の案件について料金の2割を割り引くこととする。(検証申請の促進策)

PCR認定及び改訂の料金変更にあたっての課題

対応方策	具体案	課題
PCR認定料無償化	無償化の対象として ・複数社申請案件は無償 ・個社申請案件は、従来通り有償とする	公共性の評価基準として、個社申請と複数社申請で区別することが妥当か
	CFP検証同時申請の場合、検証費を割引く(個社申請限定)	・同時申請がどこまで見込めるか ・どこまでを同時申請扱いとするか
	改訂申請も無償化	事務手数料は徴収するか
PCR利用料の設定	利用料(金額設定) 例; 検証製品毎にPCR利用料として、一律10%上乗せし利用者全体で負担する。 (2013年度の個別申請案件約120製品でPCR12件を負担すると約1万円/製品となる)	・いくら上乗せするのが妥当か ・システム認証経由の検証の場合の扱い徴収するのであれば、新たな手順が必要
対応方策実施対象	過去に策定されたPCRを含め実施	・既にPCR認定料を徴収しているものに対し、PCR利用料を上乗せする根拠の説明
ELとの整合	2014年末を目標とした料金統一	・検証費の統一は困難 ・個社申請についてはELも認定料を徴収

PCR認定及び改訂の料金変更実施スケジュール(案)



CFP普及・認知度促進のための登録・公開料の減額措置(案)

CFP取得事業者が、以下のCFP普及・認知度促進に寄与する市場導入・プロモーションの取り組みを実施した事実が確認できる場合には、登録公開料を、一定の限度(最大割引率)を設け、割引ポイントに応じた割引率で減額措置を講ずるものとする。

(具体的な割引ポイント、最大割引率(50%程度)及び事実確認方法等は内規で決める)

キャンペーン実施期間:2015/1~2015/12(1年間)、全事業者対象、事前予告

NO	普及努力内容		割引ポイント
1-1	CFPマーク表示	製品へ表示	【検討中】
1-2		カタログに記載(営業が持参・説明)	
1-3		企業環境報告書等に記載	
1-4		その他	
2-1	CFP取得をPR	テレビコマーシャル等	
2-2		新聞コマーシャル掲載記事	
2-3		新聞記事(ニュースリリース)	
2-4		その他	
3	その他		

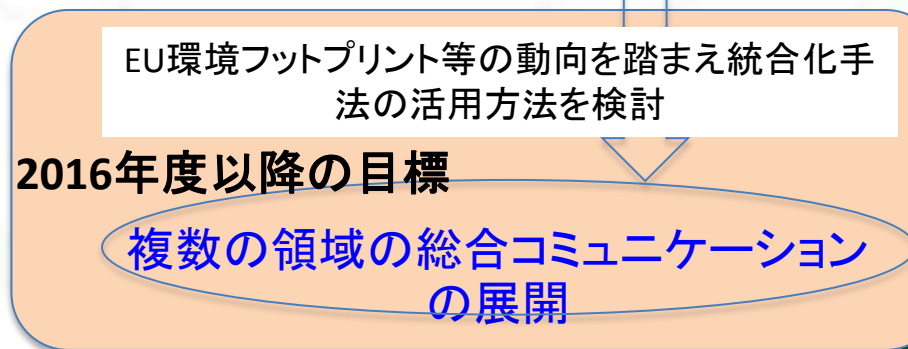
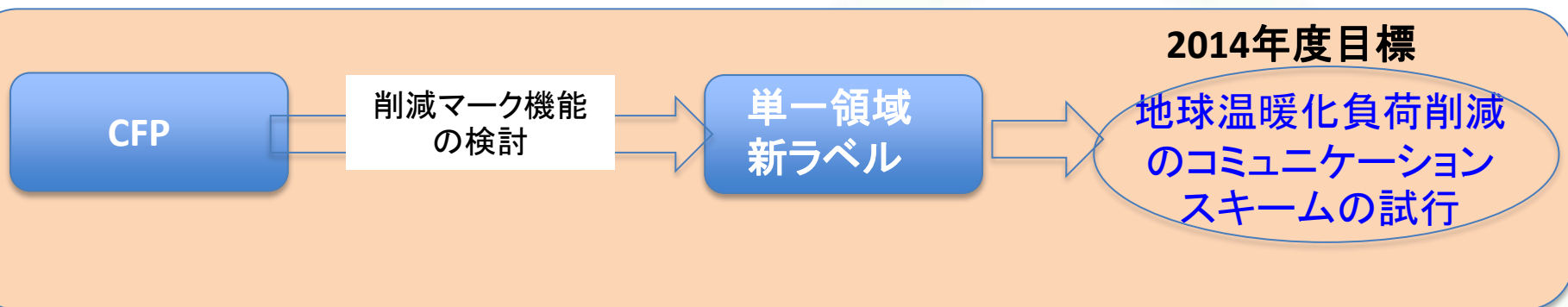
普及のための削減マークの導入について(案)

背景と目的

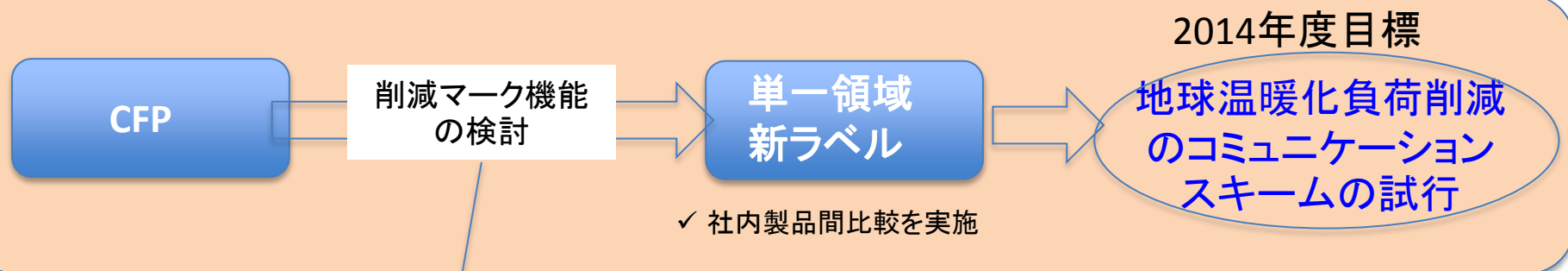
- 2002年に事業化したタイプⅢ環境ラベル「エコリーフ」は成熟期を迎え、2009年から3年間の試行事業を経て事業化したカーボンフットプリント(CFP)宣言も期待に応えられない状況である。また地球温暖化のみならず複数の環境領域の考慮が求められている。
- 両者に共通する根本原因(障害)は「環境負荷の見える化」にあり、今後の大幅な普及を目的に、「申請企業の削減努力のアピール」と「消費者の環境配慮製品の選択」の両面からの支援の具体的手段として、「**環境負荷の削減率を表示するマーク**」の改善と新規導入策を検討する。併せて「**複数の環境側面の総合コミュニケーション**」を検討する。
- 検討にあたっては産業界との対話の場を設けつつ進めることとする。

	現 状	今後の方向
製品供給者 (企業)	定量的な環境情報の提示 ⇒環境配慮企業のイメージアップ	削減効果や削減努力の主張 のために削減マークの導入 ⇒環境配慮製品のアピール
製品購買者 (消費者)	環境配慮(見える化) の気づき	環境配慮製品の 選択購買意識の向上

①複数の環境領域のコミュニケーションスキームの開発

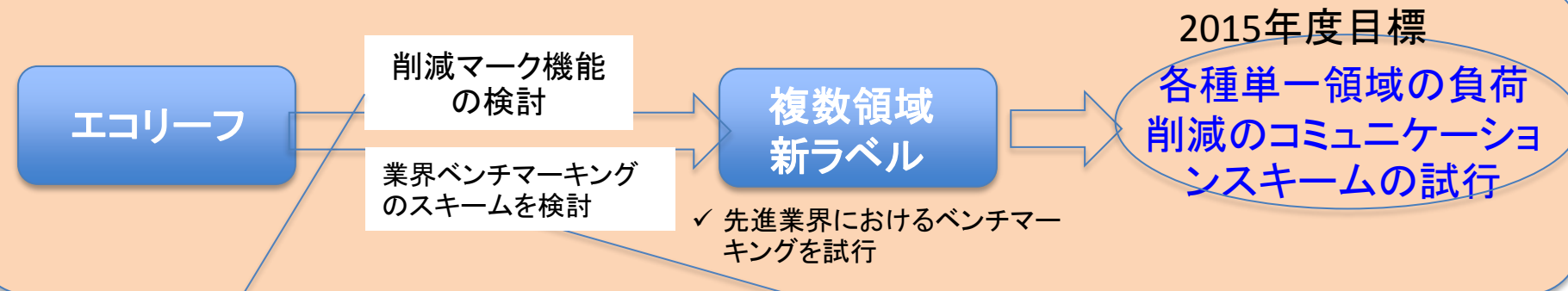


②削減マーク導入/業界ベンチマーキングの検討



現状のCFPのGHG数値による自社内比較について検討

- ・比較条件の見直し(機能単位等)
- ・基準値の設定・見直し



現状エコリーフの特性化値で削減率表示を検討

- ・PCR毎にカテゴリー指標の特定
(GHG値,資源枯渇値,酸性化値,水・・・)
- ・インベントリーDBの内容(項目)充実

業界標準値との比較を目指す

- ・先進業界との検討

アドバイザーボード(7/28)

環境ラベルプログラム運用上の主な懸案事項

No	項 目	内容(課題と対応策)と進捗状況
1	リサイクル・リユース効果を直接主張できるCFP公開制度への改善 (リサイクルやリユースの促進)	現状は「リサイクル準備段階」が境界で、リサイクルしない方がGHG値が小さくなる場合が多い。 (追加情報で間接的に主張可) →8月～:提案企業との詳細打合せ (社内LCA関連者との打合せ) 10月20日:技術支援WG開催
2	CFPシステム認定制度への プログラム型認証法の導入の検討	現状は、含まれる工場が増減するとシステムの補正審査が必要、近年、団体でのシステム認定のニーズが高まり、その都度の補正審査は困難。 対応策:プログラム型認証法の導入 途中の工場(企業)の適正増減も確認 できるシステム(補正審査不要) →8月～:認証機関との打合せ (CFP型プログラム認証法の素案) 11月:複数の認証機関との打合せ予定

1-3. 広報関連(エコプロダクツ展対応等)

今年度の広報関連の取り組み

- ・2014/5/27-30 NEW環境展 WPAと共同出展 エコクイズ参加者:709名 来場者数:167,210人
- ・2014/6/15 湘南工科大学オープンキャンパス サンプル貸出
- ・2014/7/19-20 東京都市大学伊坪研究室 オープンキャンパス サンプル貸出
- ・2014/7/20 湘南工科大学オープンキャンパス サンプル貸出
- ・2014/8/6-7 経産省子供見学デー エコ学「地球温暖化からの脱出ゲーム」協力 来場社3,221人
- ・2014/8/3 湘南工科大学オープンキャンパス サンプル貸出
- ・2014/8/24 湘南工科大学オープンキャンパス サンプル貸出
- ・2014/8/26 東海三県一市グリーン購入キャンペーン説明会
- ・2014/8/29-30 ワークショップコレクション エコ学「妖怪eco庵」協力
- ・2014/8/29 東京都市大学伊坪研究室 オープンキャンパス サンプル貸出
- ・2014/9/27 中津川ソーラー武道館 サンプル貸出
- ・2014/9/28 湘南工科大学オープンキャンパス サンプル貸出
- ・2014/9/30～ エコ商品ねっとへCFP掲載開始(エコリーフは以前より掲載)
- ・2014/10/11・12 りふ環境まるごとフェア サンプル、ポスター等貸出
- ・10/15～11/14 東海三県一市グリーン購入キャンペーン協賛
- ・11/8.9 あいち・なごやESD交流フェスタ 東海三県一市グリーン購入キャンペーンブースへパネル展示
- ・12/11.12.13 エコプロダクツ展ブース出展
- ・12/12 エコプロダクツ展セミナー

エコプロダクツ展セミナーについて

一般社団法人グリーンビルディングジャパンとの
共催セミナーを開催します。

◆日時: 2014年12月12日(金)
14:00-15:30

◆場所: 東京ビッグサイト
会議棟1階101号室



- 【内容(案)】 (仮)住宅・建材等事業者様向けのガイダンスセミナー
ーLEED/V4(建築物環境性能認証システム)とJEMAI環境ラベル(エコリーフ)ー
- ・ LEED/V4の概要と今後の展望
 - ・ LEED認証取得と環境ラベリング(エコリーフ)
 - ・ エコリーフの概要と取得方法

【対象】 建築・住宅・建築部材事業者様

【参加費】 無料

エコプロダクツ展ブース出展について

エコプロダクツ2014[第16回]概要

◆会 期 2014年12月11日[木]～13日[土]
10:00～18:00(最終日は17:00まで)

◆会 場 東京ビッグサイト[東1～6ホール]
2014年12月11日(木)・12日(金)・13日(土)

JEMAIブース:東1ホール 1-065

- ・(一社)日本WPA、(株)丸八製造と連携してブース出展を行います。
- ・JEMAIブース内にて、トーソー(株)、(株)日立製作所の製品紹介を行います。

一般消費者向け普及啓発よりも、これから取り組む事業者の方を重点対象とし、LCAの概要、ラベル取得の方法、取得後の活用等を中心とした展示を行う予定です。



参加企業ロゴマーク一覧について

エコプロダクツ展にて、
企業ロゴマーク一覧の
ブース内に表示を
行います。



【9/22現在登録企業の一覧】

まだ企業ロゴデータをいただいていない企業の方は、
至急 ecodesign@jemai.or.jp へデータをお送りください。

環境ラベル参加商品紹介スライドショー作成について

登録企業・製品紹介のスライドショーの作成を行います。
セミナーの開始前やイベント時のブース内モニター等での投影に使用します。

製品紹介スライドショーの作成にご協力をお願いいたします。

★近日中に、製品紹介シートのフォーマットのPPTをお送りしますので、作成をお願いします。

★文字の配置、ロゴ・写真のサイズ等は、他の製品とのバランスを見て調整させていただく場合がありますのでご了承ください。



【作成例】

1-4. 環境ラベルをめぐる国際動向 (PEF World Forum(於:ベルリン)報告)





Michele Galatola,
Product Team Leader, European Commission, DG Environment

Product Carbon Footprintから、Product Environmental Footprintへ

2009年 第1回PCF world forum
↓
2012年 第8回PCF world forum

2013年 第1回PEF world forum
↓
2014年 第2回PEF world forum

<会合の仕掛け人>

Thema1

ベルリンのシンクタンク。環境にまつわる社会改変をターゲットにしている。スタッフは10人程度。

その他、スピノフ的な会合として、
食品分野、PEFポリシー、PCR、EU政策などの会合を実施

<http://www.pef-world-forum.org/>

参加者と仕掛け人

会場の様子。分科会、TSC、PEFそれぞれの会合など細かいスケジュールが組まれ同時開催されています。参加者が多く移動が多いため、2日間、狙った人と話せるには一期一会のタイミング。



Guido Axmann,
Managing director, THEMA1



初日の模様は全世界へインターネット配信



欧州、米国中心に150名の参加者

参加者について



いつでもどこでも、議論好き

コンサル

THEMA1

Unilever

TSC

(元カーボントラスト社)

Karen Hamilton, Vice President Sustainability, Unilever

Euan Murray, Chief Strategy Officer, TSC (元カーボントラスト社)



元ドール→南米出身だが
欧州に移住。今コンサル業



元アディダス→2年経って、コンサル業

TSCと共同開催



Euan Murray
イギリス人。
元カーボントラスト社で
TSCにヘッドハンティングされた状態。



Sheila Bonini, 長年マッキンゼーでお仕事。
CEO, The Sustainability Consortium



私、まだ就任して4週間なの。
色々分かってなくて、ゴメンナサイね。
細かい話は、Euan Murrayからさせる
わね。

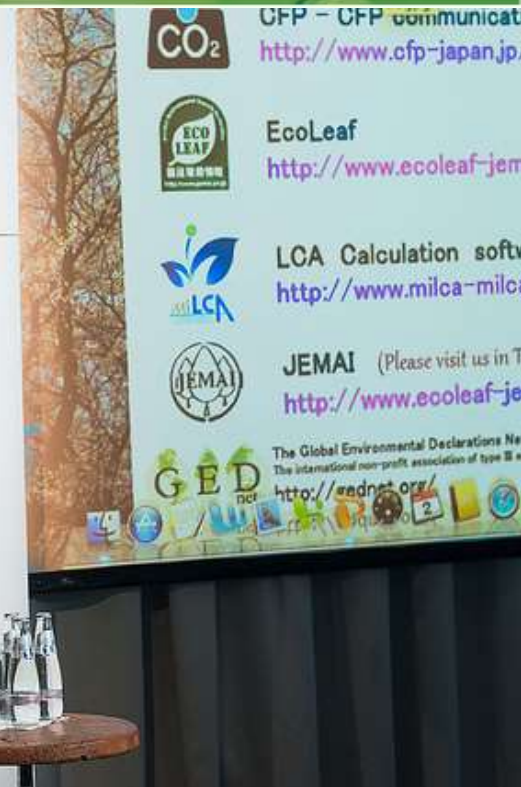
Discussion
議論好きの
欧州人

Decision
決断好きの
米国人

+

“Early Win” のために
その中間を模索したら... ?
という意見が会場から出たが... ?

JEMAIも毎年発表しています！ 集めたロゴも発表させていただきました ☺



TSC参加企業のトーク

Vice President of Sustainability, **Walmart**

Specialist Product Sustainability, **Ahold**

Head of Sustainable Business, **Marks and Spencer**

Head of Environmental Sustainability, **Nestle Waters**

Global Manager of Scientific and Regulatory Affairs for Sustainability, **Mars**

Climate Change Manager, **AkzoNobel**

Director Sustainability, **BASF**



M&M 対決がありました。



マティアスさん (Matthias Finkbeiner)
大学の先生。民間企業の声を代弁！
Chair of Sustainable Engineering,
Technical University Berlin:

ガラトラさん (Michele Galatola)
欧州委員会 PEFのプロジェクトリーダー
Product Team Leader
European Commission, DG Environment

ラーナさん (Rana Pant)
欧州委員会 LCA、DBの専門家
Scientific Technical Project Officer,
European Commission



良く食べ、飲み、議論する2日間。ネットワーキングも大切な仕事。



中身の細かい報告は、年明けのLCA日本フォーラムやJEMAIのセミナーでご紹介する予定です。

今までのPEF world forumのプレゼンの様子は、Youtubeでもご覧いただけます。

<https://www.youtube.com/user/PCFworldforum>



サーバー、携帯電話などの規格作成が進行中です。

建築物の第三者認証制度

LEED (Leadership in Energy & Environmental Design)



建築物の環境性能に関して加点するランキング制度です。

エコプロダクツ展で、GBJと一緒にセミナー開催いたします！

利用日程：2014/12/12(金)

利用施設：101、103会議室



EPEAT とは？



EPEAT の概要（イー पी ート） Electronic Product Environmental Assessment Tool
アメリカの電子製品の環境に与える影響の総合評価システムです。
EPEAT登録の運用は米Green Electronics Council が行っています。
EPEATとは電子製品の環境に与える影響の評価システムを 指し、必須項目と任意項目の加点数によって取得を目指す製品のランク(金・銀・銅)が決定されます。アメリカ連邦政府で物品が調達される際にEPEATにカテゴリーがあれば、95%以上がEPEAT登録製品を求められています。

■登録可能な製品分野

登録可能

- Computers and displays**
desktops, laptops/notebooks, workstations, thin clients, displays (computer monitors)
- Imaging equipment**
printers, copiers, scanners, multifunction devices, fax machines, digital duplicators and mailing machines
- Televisions**

基準作成中

- Server
- Mobile devices

■3つの評価ランクについて

規程内容は、登録する製品分野によって異なるが、例えば、印刷複合機などを含む「Imaging equipment」の場合、必ず満たさなくてはならない必須基準23項目と、オプション基準の8分野28項目がある。

認定申請を行った製品は「金」「銀」「銅」の3種類に分けて登録。

	金（23の必須の基準+任意の基準の75%以上を満たしている）
	銀（23の必須の基準+任意の基準の50%以上を満たしている）
	銅（23の必須の基準のみ満たしている）

各年度の新規登録ラベル数

近年のインセンティブ

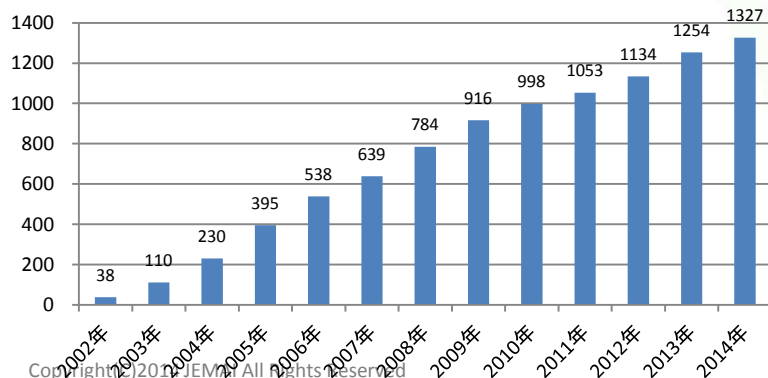
- ・他のラベルプログラムの影響
- ・CSRレポートに活用
- ・環境フットプリント等海外の制度への準備



●エコリーフプログラム 開始

●US: EPEATプログラム開始

登録年ごとの新規ラベル(累計数) (2014年4月26日現在)



●US: EPEAT がImaging Equipment について規定を 作成開始

●Imaging Equipmentについて EPEAT登録開始。

エコリーフのラベル登録数 増加！

キヤノン、リコー、コニカミノルタ、
東芝テック、
京セラドキュメントソリューションズ●CFP制度
試行事業開始●CFPプロ
グラム開始

建築物の第三者認証制度

現在、LEEDv3、v4が併用されており、2015年6月頃、LEED v4に統合される予定。

LEED 建築物の環境性能に関して加点するランキング制度です。

(Leadership in Energy & Environmental Design)

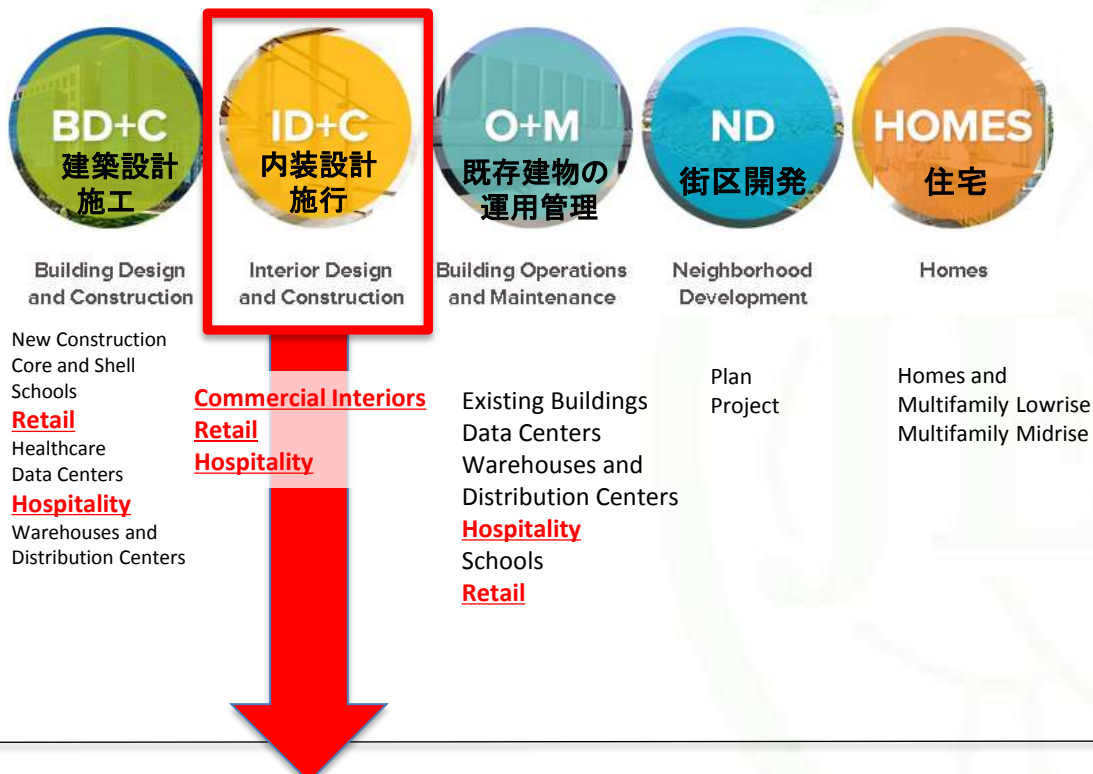
<LEEDによる評価の仕組>

格付システム (5つのカテゴリーから申請者が選択する)



査定されて、ランクが決まる!

基準項目を満たしてポイント加算



プラチナ (80点~)
ゴールド (60~79点)
シルバー (50~59点)
認定 (40~49点)



グリーンビルディングとしての第三者認証

グリーンビルディングとは: 立地選定から設計、建設、運営、改築、解体に至る建物のライフサイクル全体にわたり、環境と資源に配慮した、持続可能あるいは高性能な建物

以下の分野に関して、エコリーフを含むEPD(環境宣言)でポイントが加点される!

商業用内装 Commercial Interiors
小売店 Retail
宿泊施設 Hospitality

エコリーフについてのインセンティブに繋がる!

LEED v3(2009)からLEED v4(2013)の変更で**LCA関連の加点**が明確化!

LEED (Leadership in Energy & Environmental Design) 制度

LEED v4のCredit (Building Product Disclosure and optimization-Environmental product declarations)に以下の記載があります。

商業用内装、小売店、宿泊施設について、EPDの公開に関して1～2ポイント加点されます。

(補足: 要求事項のスコープ対象は、長期的に設置する建築製品や家具です。MEPと呼ばれる「機械・電気・配管」設備はのぞく。)

① 1つの建物について、20製品(5社以上)で、EPD認証された製品を採用 : 1ポイント加点

製品タイプⅢ EPD以外にも、その他、クリティカルレビューされISO 14044に従ったLCAの実施や、業界汎用EPDなどもポイントの加点に繋がる。(ただし、ポイントへの換算値が異なる。)

※EPDの例として、日本のエコリーフも記載されています。

② 環境影響の最適化について、以下の条件の場合 : 1ポイント加点

6影響領域のうち3つ以上の項目について、業界標準と比較した場合の削減効果(第三者認証での証明が必要)地球温暖化、オゾン層破壊、酸性化、富栄養化、対流圏オゾンの形成、非再生エネルギー資源の枯渇)

※この場合、長期設置される製品のうち、半数以上での対応が必須

EPEAT制度での活用実績をもとに考えると、LEEDへの対応はエコリーフにとって大きなインセンティブに繋がります！

- ・建築、施設家具業界について、LCAや環境ラベルへの関心が高まる！
- ・第三者認証を受けた環境ラベル取得は、LCAを行う企業として海外市場への参加も円滑にする！